



2023年第2四半期 決算説明会

株式会社ブリヂストン

2023年8月9日

G財務統括部門長（Global CFO）

菱沼 直樹

BRIDGESTONE
Solutions for your journey

1. 2023年第2四半期累計 連結業績 … 3
2. 2023年通期 連結業績予想 … 13

1. 2023年第2四半期累計 連結業績

2023年第2四半期累計 連結業績

(単位：億円)

	2022年 第2四半期累計実績	2023年第1四半期		2023年第2四半期		2023年 第2四半期 累計実績	前年比増減 (%)
		第1四半期	前年比増減 (%)	第2四半期	前年比増減 (%)		
売上収益	18,863	10,435	+17	10,582	+6	21,017	+11
調整後営業利益	2,066	1,168	+16	1,215	+15	2,383	+15
利益率	11.0%	11.2%	△ 0.2pp	11.5%	+ 0.9pp	11.3%	+ 0.4pp
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	929	905	+ 68	921	+136	1,826	+97
-うち継続事業	1,176	907	+39	926	+78	1,833	+56
-うち非継続事業	△ 247	△ 2	-	△ 5	-	△ 7	-

※ 売上収益、調整後営業利益は、「継続事業」のみの金額・数値を表示しております。

2023年第2四半期累計 業績概要

第2四半期累計 ハイライト

- グローバルで景気減速の影響を受け、特にトラック・バス用タイヤを中心に市販用タイヤ需要が前年比で大きく減少する中、戦略的価格マネジメントを推進するとともに、レジリアントなプレミアム領域へのフォーカスを強化し、低採算領域の見直しを加速させ、販売MIXの改善を継続的に徹底。断トツ商品を軸にプレミアムの拡販にフォーカスし、ビジネスの質の向上へ繋がった。
- 乗用車用プレミアムタイヤ（18インチ以上高インチタイヤ、内 20インチ以上「超」高インチタイヤ、各地域プレミアムタイヤ）の販売MIXアップ、鉱山用タイヤの前年比販売増を達成し、売上収益は前年比で増収を確保。為替円安の追い風もあり、上期において当社初の売上収益2兆円超。
- 調整後営業利益については、原材料価格・インフレ（エネルギー費、労務費等）等によるコスト面のマイナス影響を売値・販売MIXの改善でカバーし、需要減少による販売減影響あるも、徹底した経費マネジメント・生産現場の生産性改善に取り組み、為替影響込みで前年比増益を確保。
- プレミアム販売数量（本数）アップと売値・販売MIXアップの両方を志向。

第2四半期累計 財別販売概況

PS/LT (乗用車/ライトトラック用)

- プレミアムタイヤ（HRD：18インチ以上）は相対的にレジリアントで販売が堅調 – 上期累計 PSR-HRD販売：前年比108%
- 新車用：自動車各社の車両生産状況は改善傾向。地域差あるもタイヤ販売も前年比で増加。
- 市販用：景気減速によるタイヤ販売減少が続くも、プレミアムタイヤは堅調。日本では冬タイヤ値上げ前駆け込み仮需影響有。

TB (トラック・バス用)

- 新車用：地域差あるが、半導体影響からの需要回復の動きが継続。
- 市販用：景気減速を背景に米欧を中心に前年比販売減。特に欧州での減少が著しい。

OR (鉱山用、建設用)

- 鉱山用：鉄、銅を中心とした鉱物需要が堅調に推移し、グローバルで前年を上回る販売が継続。
- 建設用：新車用は堅調な販売伸長が続く一方、市販用は中小型において北米での流通在庫の調整等を背景に、販売減。

2023年第2四半期累計 事業環境 / タイヤ需要



為替

- USD、EURともに前年比円安で推移。
 上期累計：1USD=135円、1EUR=146円 （2Q：1USD=138円、1EUR=150円）
 （参考）22年上期累計 1USD=123円、1EUR=134円



原材料/ 加工費

- 原材料：素原料単価は前年比下落傾向が続くも、原材料サプライヤーにおける素原料以外のエネルギー費、労務費等は前年比で増加し、原材料全体の価格水準としては前年比で上昇。
- 加工費：工場におけるエネルギー費・労務費等のインフレが継続しており、前年比で増加。



タイヤ需要 (PSR/TBR)

- 新車用：地域差あるも、半導体不足改善に伴う自動車各社の生産回復により、タイヤ需要も回復基調。
- 市販用：米欧を中心とした景気減速により、PSR/TBR共にタイヤ需要は前年比減少。
 PSR-HRD（18インチ以上）については相対的にレジリアントな需要が継続。

相場動向（平均価格）推移

	2022年				2023年	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
天然ゴム 〈TSR20〉※1 (¢/kg)	177	165	146	130	137	135
天然ゴム 〈RSS#3〉※1 (¢/kg)	210	211	163	150	161	155
原油 〈WTI〉 (\$/bbl)	95	109	91	83	76	74

タイヤ需要（本数 対前年）

当社推定値	PSR/LTR（乗用車/ライトトラック用）		TBR（トラック・バス用）	
	OE（新車用）	REP（市販用）	OE（新車用）	REP（市販用）
日本	121%	97%	109%	99%
北米	111%	90% ^{※2}	99%	73% ^{※2}
欧州	116%	87%	108%	72%

※1 Source: Singapore Commodity Exchange Limited 期近市況価格

※2 USTMA+TRAC需要は右記の通りです PSR/LTR REP：94% TBR REP：80%

2023年第2四半期累計 タイヤ販売本数：対前年



PSR/LTR

	対前年
グローバル	95%
OE（新車用）	
グローバル	106%
日本	118%
北米	107%
欧州	114%
中国・アジア・大洋州	92%

REP（市販用）

グローバル	90%
日本	92%
北米	92%
欧州	79%
中国・アジア・大洋州	94%



TBR

	対前年
グローバル	87%
OE（新車用）	
グローバル	96%
日本	113%
北米	87%
欧州	108%
中国・アジア・大洋州	98%

REP（市販用）

グローバル	84%
日本	101%
北米	82%
欧州	58%
中国・アジア・大洋州	93%



ORR

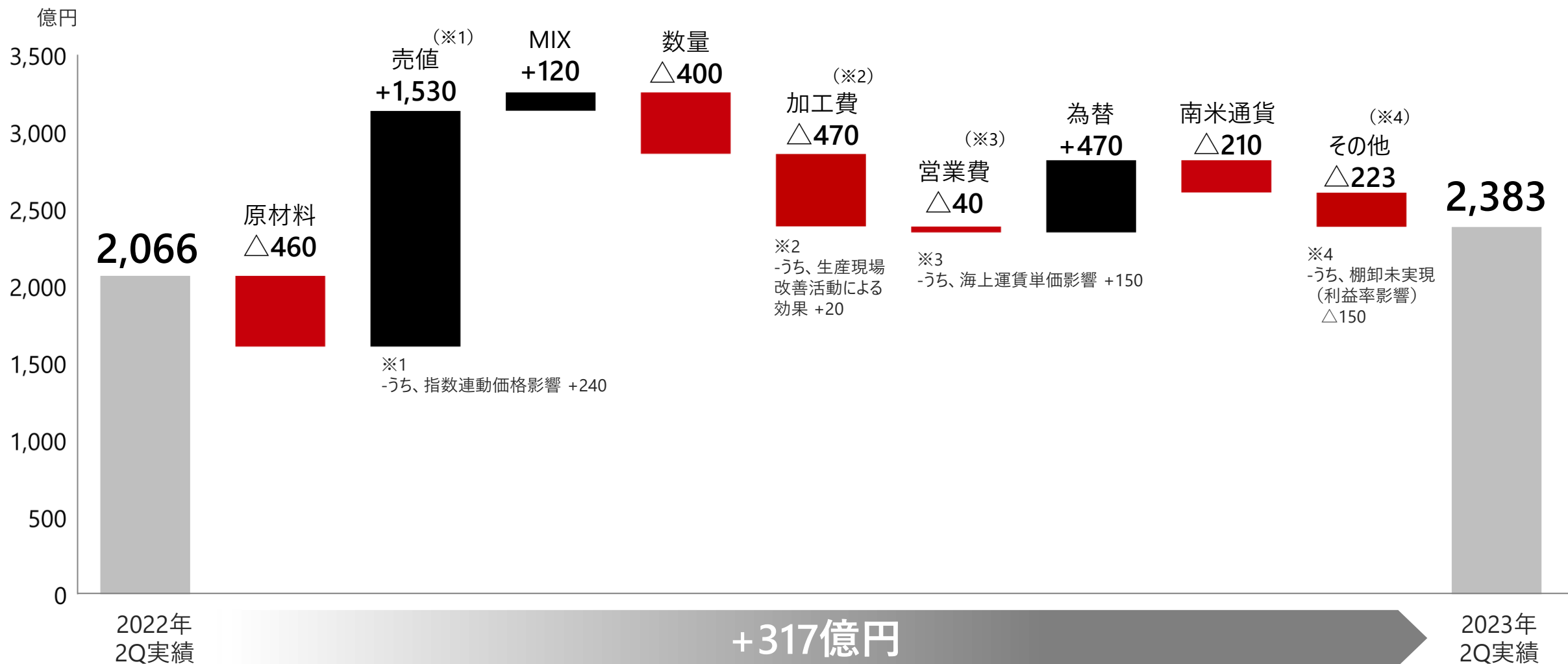
	対前年
超大型（REP）	105%
大型	109%
OE	118%
REP	104%
中小型	96%
OE	108%
REP	88%



PSR 18インチ以上

グローバル	108%
REP	102%

2023年第2四半期累計 調整後営業利益増減要因：前年差







2023年第2四半期累計 セグメント別業績

		2022年 第2四半期累計実績	2023年 第2四半期累計実績	(単位：億円) 前年比増減 (%)
日本 ※	売上収益	5,315	6,076	+14
	調整後営業利益	552	891	+62
	利益率	10.4%	14.7%	+4.3pp
米州	売上収益	8,911	10,131	+14
	調整後営業利益	1,123	1,187	+6
	利益率	12.6%	11.7%	△ 0.9pp
欧州・ロシア・中近東・ インド・アフリカ	売上収益	4,220	4,508	+7
	調整後営業利益	390	150	△ 62
	利益率	9.2%	3.3%	△ 5.9pp
中国・アジア・大洋州	売上収益	2,146	2,300	+7
	調整後営業利益	177	173	△3
	利益率	8.3%	7.5%	△ 0.8pp

※ 2023年より、一般タイヤ取引における日本本社の輸出損益を「セグメント間」から「日本セグメント」での計上に変更しております。なお、対応する前年同期についても同様に組み替えた金額・数値を表示しております。

2023年第2四半期累計 財別業績

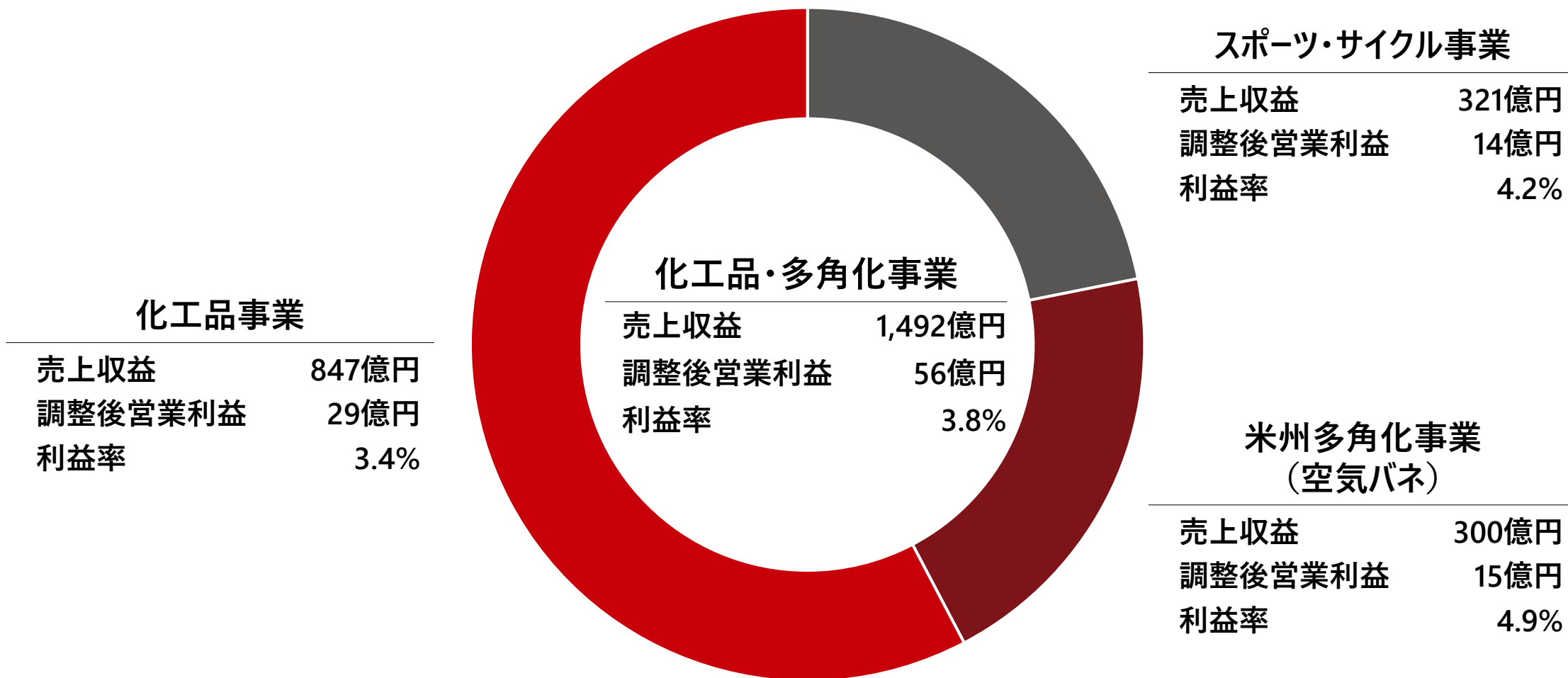
(単位：億円)

	2022年 第2四半期累計実績	2023年 ※1 第2四半期累計実績	前年比増減 (%)
 PS/LT (小売・クレジットカード事業を含む)	売上収益 9,893 調整後営業利益 1,072 利益率 10.8%	11,355 1,182 10.4%	+15 +10 △ 0.4pp
 TB (リトレッド事業を含む)	売上収益 4,996 調整後営業利益 410 利益率 8.2%	5,082 474 9.3%	+2 +16 +1.1pp
 Specialties (OR/AC/AG/MC)	売上収益 2,633 調整後営業利益 534 利益率 20.3%	3,088 670 21.7%	+17 +26 +1.4pp
 化工品・多角化事業 ※2	売上収益 1,342 調整後営業利益 51 利益率 3.8%	1,492 56 3.8%	+11 +11 △ 0.0pp

※1 2023年より、財別業績の算出方法を一部変更いたしました。なお、対応する前年同期についても同様に組み替えた金額・数値を表示しております。

※2 事業譲渡の決定に伴い、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類しております。売上収益、調整後営業利益は、同事業に関する収益・費用を除いた「継続事業」のみの金額となります。

2023年第2四半期累計 化工品・多角化事業 事業別業績（継続事業ベース）



※ 事業譲渡の決定に伴い、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類しております。
売上収益、調整後営業利益は、同事業に関する収益・費用を除いた「継続事業」のみの金額となります。

2023年第2四半期 財政状態計算書及びキャッシュ・フローハイライト

(単位：億円)

		2022年期末実績	2023年第2四半期期末実績	対前年末
資産合計 [※]		49,622	53,913	+4,291
資本合計 [※]		30,125	33,736	+3,611
親会社所有者帰属持分比率 [※]		59.8%	61.6%	+1.8pp
有利子負債<ネット>		2,483	2,356	△ 126
期末為替レート	USDドル	133円	145円	+12円
	ユーロ	141円	158円	+17円
		2022年第2四半期累計実績	2023年第2四半期累計実績	対前年同期
営業CF		948	2,364	+1,416
投資CF		△ 1,151	△ 1,285	△ 135
フリーCF		△ 203	1,079	+ 1,281
設備投資		915	1,384	+469
減価償却費及び償却費		1,340	1,467	+127

※IAS第12号「法人所得税」の適用により、2022年期末実績の金額を遡及修正しております。

2. 2023年通期 連結業績予想

2023年 通期見通しについて

為替／原材料／タイヤ需要見通し



為替

- 下期の為替水準として、1USD=133円（通期1USD=134円）、1EUR=143円（通期1EUR=144円）を想定。



原材料

- 原材料：天然ゴム・原油ともに下期経済回復に伴い前年比緩やかな単価上昇を想定。（2月計画比単価軟化）



タイヤ需要

- 新車用：半導体不足改善に伴う需要回復が下期以降も継続を見込む。
- 市販用：タイヤ需要全体の見通しについては、下期にかけて需要回復基調を想定も、当初想定より鈍化を見込み、年間で2月対発計画及び前年を下回る見込み。
一方で、PSR-HRD及び鉱山用タイヤ需要は、相対的に堅調な推移を見込む。

下期事業環境に関する懸念事項

- 下期に需要回復を見込んでいる米欧のTBの回復遅れ、回復幅の減少。特に欧州市場の更なる景気・需要環境悪化。

通期業績予想について

- 2023年通期業績予想及び配当予想は、2023年2月に発表した数値から変更ありません。
- 業績予想の前提は下記の通りです。
 - 2月計画比：販売数量減・MIX悪化影響を、経費マネジメント・コスト改善でミニマイズ。2月計画比、為替の円安影響をおり込み、通期業績確保を見込む。
 - 販売：2月計画比で市販用タイヤ（PS/TB）の販売数量減、新車用タイヤ販売比率増による販売MIX悪化を見込む。
 - 売値：戦略的価格マネジメントを継続徹底。2月計画からの事業環境変化に対して、販売数量と価格のバランス最適化を見込む。
2月計画比では売値・MIXと原材料のスプレッド維持を見込む。
 - 経費・コスト：経費マネジメントの徹底、生産現場の生産性改善によるコスト改善活動を推進。
 - その他：2月計画比、為替影響（円安前提）と原材料影響（原材料価格軟化前提）は良化方向。
 - 通期でプレミアム販売数量（本数）アップと売値・販売MIXアップの両方を志向するスタンスは変えず、ビジネスの質の向上を推進。
- 事業環境は当初想定以上に厳しい見通しの中、ビジネスの質の向上にフォーカス。需要動向を注視し、フレキシブル・アジャイルな供給・在庫マネジメントを徹底し、通期業績確保（前年比増収増益）及び配当確保（年間200円/株、前年比+25円/株増配）に向け「実行と結果に拘る」マネジメントを継続してまいります。
- 今後の事業環境や当社業績の推移を踏まえ、業績予想に大きな変更が出る場合は、その時点で速やかに開示いたします。



免責条項

本資料に掲載されている業績予想、計画、戦略、目標などのうち歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報からの判断に基づき作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。そのため、今後の当社を取り巻く経済環境・事業環境などの変化により、実際の業績が掲載されている業績予想、計画、戦略、目標などと大きく異なる可能性があります。従いまして、投資に関する決定はご自身のご判断においてなさるようお願いいたします。